

治する、平和と愛に満ちた楽園です。

それでは、キリストの再臨までそのような新しい天、新しい地は望みえないことでしょうか。そうではありません、キリストが2000年前に来て下さって以来、キリストを信じる者は、キリストのやわらかな翼の下で憩い、全ての人が兄弟になり、神の家族の兄弟姉妹となって新しい天、新しい地の前味を味わい続けるのです。そして、このような賛美歌（歓喜の歌）を教会で毎週賛美するという愛の交わりの中で、天上の賛美を展望するのです。詩篇の作者は次のように歌います。

（十）詩篇<sup>5</sup> 36:7 神よ。あなたの恵みは、なんと尊いことでしょうか。人の子らは御翼の陰に身を避けます。詩篇63:7 あなたは私の助けでした。御翼の陰で、私は喜び歌います。

#### （4）269小節

大きな幸いを得た人（すなわち）

ひとりの友の友となり

優しい妻を得たひとは

その喜びを共にしよう

「幸い」（wulf）とは「大きな」で修飾されており、英語ではgreat・偉大の幸いです。偉大な幸いを得た人とは、世俗的（富、名誉）な幸い、この世の幸いを偉大などとは言いませんので、「偉大な幸い」とは信仰を得た人に相違ありません。信仰とは、天国への切符を得た人、天国を保証された人です。

（二）「エペソ人への手紙 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」

この聖書箇所<sup>6</sup>の聖霊とは、キリストを信じた人の心の内に与えられるものですが、そういう人は、「御国（天国）を受け継ぐことの保証です。」と聖書は教えています。

また、「信仰を得た人」はこの世においては、「永遠のいのち」を得た人です。「永遠のいのち」とは、キリストを信じたことで、罪<sup>7</sup>の奴隷の人生からキリストのしもべとなって、新しい愛のいのちを生きることで、天国の前味（あたかも天国にいるような至福）ともいえます。

「ひとりの友の友となり」は、信仰を得た人は、同じく信仰を得た人と、真の友人同士となる。そして、互いに「神の家族」ともなり兄弟姉妹となる。さらに、友とは、イエスを信じる者は、イエスの友になるとイエスは言われました。

<sup>5</sup> 神に対する150の賛美の書で長い間（約2000年間）に多くの作者によって書かれた。

<sup>6</sup> 生まれながらの人の幸福は「自己実現」。自己実現がこの世の幸いといえます。キリストを信じると、価値観の転換が起こります。信じた人は、神を愛することを自己よりも大切にします。人間が創造された本来の生き方になり、この世にない幸福を得ます。神の愛と隣人愛に生きることを聖書は教えています。「心の貧しい者は、幸いです。天の御国はその人のものだから。（マタイの福音書5:3）。

<sup>7</sup> 聖書のいう「罪」とは「犯罪」のことばかりではありません。「犯罪」というのは、泥棒をしたり、詐欺をしたり、人を殺したりする、いわゆる刑法上の罪ですが、聖書で言う「罪」は、もっと広い意味があります。聖書で言う「罪」とは「神ご自身の完全な正しさ、清さの標準からはずれること」をいいます。この世の中に神と同じ正しさをもった完全無欠な人はいないです。たとえば、一つの身近な例として嘘をつくことを考えて見ましょう。嘘は罪です。それでは、嘘を何回つけば嘘つきになりますか。一回です。同じように、多くの罪を犯さなくても、一回でも罪を犯すと神の前では罪人です。ですから、わたしも罪人です。みなさんも神の前では罪人です。